

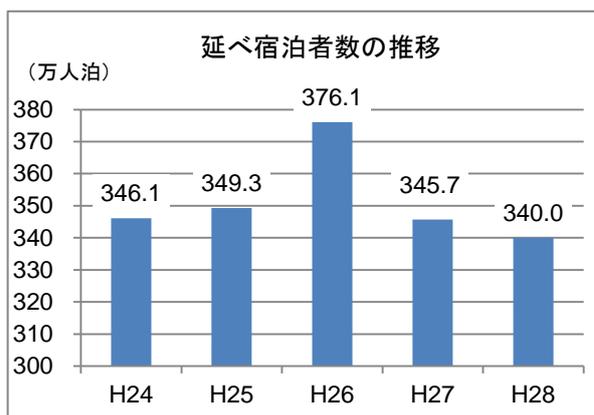
戦略4

秋田の魅力が際立つ人・もの交流拡大戦略

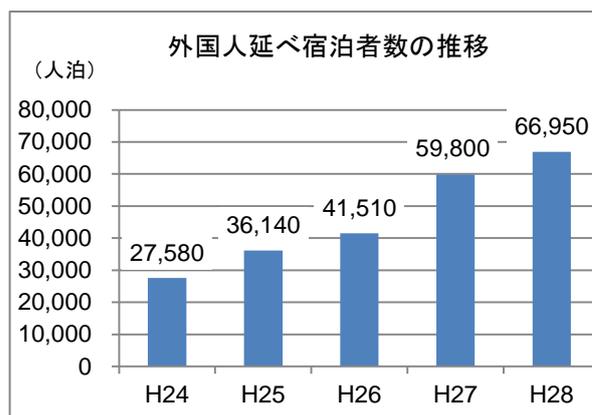
1 現状と課題

(1) 訪れてみたいと思わせる観光地づくり

- 近年の秋田県内の延べ宿泊者数は、国民文化祭等が開催された2014年(平成26年)の376万人泊をピークに減少傾向にあり、2016年(平成28年)は340万人泊に止まっています。外国人の延べ宿泊者数は、2012年(平成24年)の27,580人泊から2016年(平成28年)には66,950人泊まで拡大しましたが、これは東北地方の約10%、全国の約0.1%のシェアに止まっています。
- 本県は、大都市圏から距離的・時間的に遠いというハンディキャップを抱える一方で、秋田犬や特色ある食文化、多彩な伝統芸能など、「秋田オリジナル」とも言うべき魅力的な資源が豊富に存在します。観光客に、旅の目的地として本県を選んでいただくためには、これら地域資源を磨き上げ、国内外からの誘客コンテンツとして最大限に活用するとともに、観光客の満足度向上に向けて受入環境を整備することにより、訪れてみたいと思わせる観光地づくりを進める必要があります。



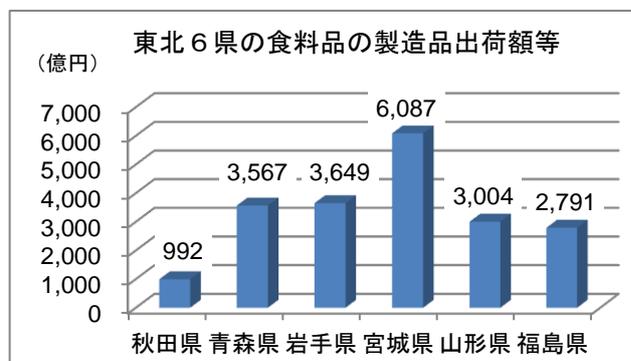
(出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」)



(出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」)

(2) ブランディングと販路拡大による食品出荷額の引上げ

- 食品産業は、原料の生産から最終製品までを県内で完結できる数少ない業種であり、県産農産物の活用や雇用の拡大の観点から、今後の成長が期待される重要な分野です。しかし、本県の2015年(平成27年)の食品製造業(飲料を除く)の出荷額は992億円であり、東北6県では最下位となっています。
- 本県の食品産業は、従業員29人以下の事業所が84%を占め、地場消費を中心とする事業所が多いことから、消費者ニーズを踏まえた商品開発やマーケットへの情報発信、大消費地や海外への商流の構築等の面で、県外の大



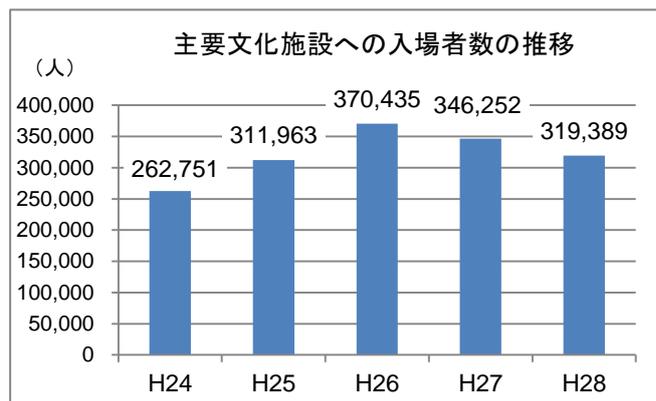
(出典：経済産業省「平成27年工業統計調査」)

第4章 戦略4：秋田の魅力が際立つ人・もの交流拡大戦略

手企業に後れをとることが少なくありません。そのため、意欲ある食品事業者の育成や幅広い事業者相互のネットワークの強化などを進め、県産食品群のブランド化と販路の拡大を促進していくことが重要です。

(3) 人口減少社会における文化の継承と地域活性化

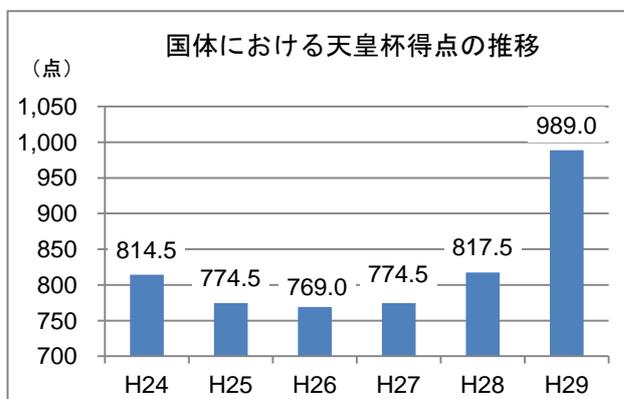
- 四季折々の祭りや行事、伝統芸能など、本県には多彩な民俗文化が存在し、中でも国が指定する重要無形民俗文化財は17件を数え、全国最多を誇ります。一方で、人口減少、少子高齢化が進行する中、若い世代の芸術文化への参画や伝統芸能の後継者育成が難しくなっています。こうした地域に根ざした文化は、地域の貴重な財産であるとともに、県民共有の財産でもあり、これを更に豊かなものにし、次の世代へと継承していく必要があります。
- また、2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されることを好機と捉え、秋田ならではの文化を国内外の多くの方々に鑑賞していただく機会を設け、新たな観光誘客を図るなど、地域の活性化につながる取組が求められています。



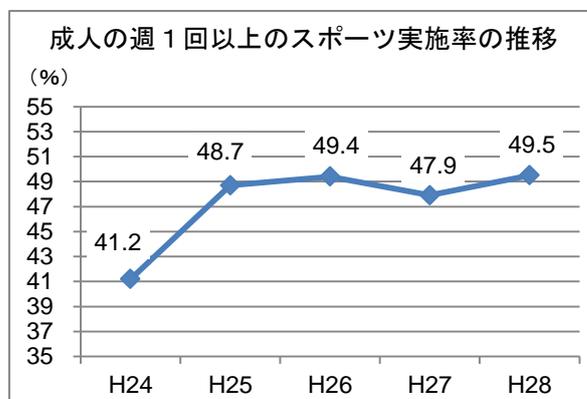
(出典：県文化振興課調べ)

(4) 少子化等の克服による「スポーツ立県あきた」の推進

- 本県のスポーツは、少子化による競技人口の減少やトップアスリートの県外流出といった課題を抱えているほか、今後ますます進行する高齢化社会を見据え、スポーツを通じて県民が生き生きとした生活を送るための環境を整えることが求められています。
- また、東京オリンピック・パラリンピック等の開催に向けて、ナショナルチームの事前合宿誘致や海外とのスポーツ交流をより一層進めるなど、スポーツによる交流人口の拡大を図っていくことが重要です。
- さらに、県有スポーツ施設の計画的な整備・改修を進めるとともに、サッカースタジアム等の大規模なスポーツ施設の整備のあり方についても、議論を深めていく必要があります。



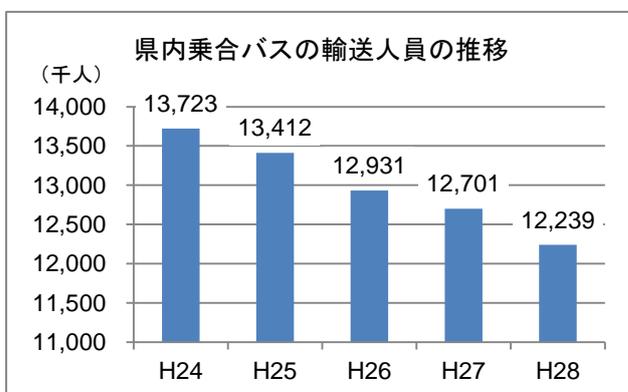
(出典：(公財)日本体育協会調べ)



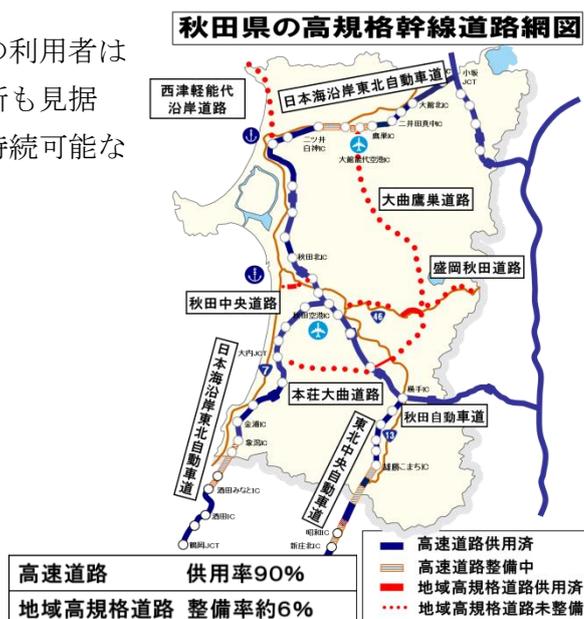
(出典：県スポーツ振興課「秋田県スポーツ実態調査」)

(5) 生活と交流を支える交通ネットワークの維持・拡充

- 県内の高速道路は、全線開通に向けすべての区間で事業化されたところであり、今後は早期開通に向けて、整備を促進していくことが重要であります。高速道路を補完する地域高規格道路等の幹線道路については、地域間交流を促進する上でも重要であり、一層の整備を推進する必要があります。
- また、新幹線及び幹線鉄道、航空路線、海上交通などの広域交通は、大都市圏や海外と本県を結ぶ重要な社会基盤ですが、本県への流動を一層力強いものとするためには、交通ネットワークの利便性を高める必要があります。
- 他方で、乗合バスをはじめとした地域公共交通の利用者は年々減少していることから、ICTなどの技術革新も見据え、様々な切り口から、人口減少社会においても持続可能な公共交通を構築することが求められています。



(出典：国土交通省調べ)



2 戦略の目標（目指す姿）

- 本県ならではの魅力が際立つ誘客コンテンツや、観光客のニーズに応える受入環境を充実し、本県が多くの観光客に選ばれることにより、国内外からの誘客を拡大させます。
- 県産食品のブランディングと販路の拡大を進め、特色ある食文化を旅の目的とする集客を拡大させるなど、「食」がリードする秋田の活性化を図ります。
- 文化やスポーツによる国内外からの交流人口の拡大を図るとともに、本県の多彩な文化・芸術の継承や、本県スポーツの競技力向上などを進展させます。
- これら活発な交流の基盤となる道路や公共交通など、交通ネットワークの充実に向けた取組を結実させ、本県の未来を創り・支える交流の一層の拡大を進めます。

3 戦略の視点

- ICTを活用したマーケティング手法を積極的に取り入れながら、地域の事業者や宿泊施設など幅広い関係者の力を結集させ、受入環境の整備と併せて、秋田ならではの魅力を最大限に生かした誘客コンテンツづくりを進め、「総合的な誘客力」を強化する必要があります。
- 本県の「食」の柱となる商品を育成するとともに、幅広い事業者とのコラボレーションや観光PRと連動したプロモーションを国内外で展開するほか、秋田ならではの食文化を誘客コンテンツとして積極的に活用する必要があります。
- 東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、本県の文化を国内外に広く発信するとともに、海外ナショナルチームの事前合宿を積極的に受け入れるほか、県・市連携文化施設や各種スポーツ施設の計画的な整備・改修を進める必要があります。
- 道路ネットワークを整備し、県土のコンパクト化や交流・物流の効率化を図るほか、今後の技術革新を見据えながら、奥羽・羽越新幹線の整備促進や多様な地域交通の確保などに取り組む必要があります。

こうした視点に立って、本戦略については次の6つの施策を柱として推進します。

4 戦略を構成する施策

4-1 地域の力を結集した「総合的な誘客力」の強化 (171 ページ)

【施策の方向性】

- (1) 国内外からの観光客に選ばれる誘客コンテンツづくりの推進 (171 ページ)
- (2) 観光客のニーズに対応した受入態勢の整備と、観光人材・事業者の育成 (172 ページ)
- (3) ターゲットを見据えた誘客プロモーションの展開 (174 ページ)
- (4) 多様なメディアや新たな手法を活用した秋田ファンの拡大 (175 ページ)
- (5) 国内外のクルーズ船の誘致と受入環境の整備 (176 ページ)

4-2 「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進 (179 ページ)

【施策の方向性】

- (1) 秋田の「食」の柱となるオリジナルな商品の開発とブランディング (179 ページ)
- (2) 食品製造業の競争力強化 (再掲) (180 ページ)
- (3) 幅広いパートナー企業や流通チャネルを活用した販路の拡大 (181 ページ)
- (4) エリアやターゲットを戦略的に選定した秋田の「食」の輸出拡大と、独自性の高い誘客コンテンツとしての活用 (182 ページ)

4-3 文化の発信力強化と文化による地域の元気創出 (184 ページ)

【施策の方向性】

- (1) 秋田ならではの文化資源のPRと、文化を通じた交流人口の拡大 (184 ページ)
- (2) 文化団体の活動促進と次代を担う人材の育成 (185 ページ)
- (3) 本県文化の中核拠点となる文化施設の整備 (186 ページ)

4-4 「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大 (188 ページ)

【施策の方向性】

- (1) 東京オリンピック・パラリンピック等を契機とした、スポーツによる地域活性化と交流人口の拡大 (188 ページ)
- (2) 全国や世界のひのき舞台で活躍できる選手の発掘と育成・強化 (189 ページ)
- (3) ライフステージに応じた多様なスポーツ活動の促進 (190 ページ)
- (4) 地域のスポーツ活動の基盤となる人材の育成と環境の充実 (191 ページ)

4-5 県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備 (193 ページ)

【施策の方向性】

- (1) 交流や経済を支える高速道路網の形成 (193 ページ)
- (2) 高速道路を補完し、広域交流を促進する幹線道路網の形成 (194 ページ)
- (3) 物流・交流拠点へのアクセス機能の強化 (194 ページ)
- (4) 日々の暮らしを支える生活道路の機能強化 (194 ページ)
- (5) 地方創生の拠点としての「道の駅」の魅力の向上 (195 ページ)

4-6 交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築 (197 ページ)

【施策の方向性】

- (1) 秋田への流動を支える幹線鉄道等の整備促進と利便性の向上 (197 ページ)
- (2) 空の玄関口を生かした国内外との流動の促進 (198 ページ)
- (3) 技術革新等を見据え地域の実情に応じた多様な地域公共交通の確保 (199 ページ)
- (4) 第三セクター鉄道の運行確保と観光誘客への活用 (200 ページ)

施策4-1：地域の力を結集した「総合的な誘客力」の強化

1 施策のねらい

秋田ならではの魅力を最大限に生かし、国内外からの誘客を図るため、体験型を柱とする観光コンテンツづくりに地域と連携して取り組むほか、観光客のニーズに対応した受入態勢整備や人材育成等を進めるとともに、多様なメディア等の活用による秋田ファンの拡大を図りながら、国内外のターゲットを見据えた効果的な誘客プロモーションを展開します。

特にインバウンド対策については、東京オリンピック・パラリンピックの開催により、訪日外国人の一層の増加が見込まれることから、台湾、韓国などの重点市場や東京、京都などの訪日外国人観光客が多い地域におけるプロモーションの強化に加え、東北各県との連携による広域周遊ルートの形成を推進するほか、近年増加している外航クルーズ船等の更なる誘致と受入環境の整備を進めることにより、誘客と観光消費の拡大を図ります。

2 施策の視点

大都市圏や成田空港・羽田空港など国際ハブ空港からの距離的・時間的なハンディキャップを乗り越えて、他県との厳しい競争の中で観光誘客を進めるためには、県内の観光地が他にはない魅力を備え、国内外の観光客から選んでいただくことが何より重要です。

本県には、世界的に人気の高い秋田犬をはじめ、伝統行事や祭り、四季折々の景色、上質な雪質を誇るスキー場、日本酒等の発酵食文化など、海外にも通用する個性的でポテンシャルの高いコンテンツが豊富に存在しています。

これらコンテンツについて、オープンデータやビッグデータを活用したデジタルマーケティングなど新たな手法を取り入れながら効果的な情報発信を行うとともに、県内各地の幅広い事業者やサポート組織が目標を共有しつつ、それぞれの強みを発揮しながら連携を高め、「オール秋田」の体制のもとで誘客を進めていく必要があります。

こうした視点に立って、本施策については次の5つの方向性にに基づき、取組を進めます。

3 施策の方向性と取組

方向性(1)：国内外からの観光客に選ばれる誘客コンテンツづくりの推進

国内外からの観光客に旅行先として本県を選んでいただけるよう、秋田犬とのふれあいをはじめ、祭りや郷土芸能、スポーツや芸術文化などを活用した秋田ならではの体験型観光を推進するとともに、東北各県との連携による広域周遊ルートの形成を図ります。

取組①：秋田ならではの体験型観光の推進

県内での観光客の滞在時間の延長や、増加傾向にあるFIT（外国人個人旅行者）の更なる拡大を図るため、見て、触れて、楽しめる体験型コンテンツの整備を進めるとともに、複数のコン

テントを組み合わせた県内周遊ルートの形成を図る等により、秋田ならではの体験型観光を推進します。

【主な取組】

- ・県内各地における、秋田犬とふれあえる場の拡大と、周辺の体験型コンテンツを組み合わせた県内周遊ルートの形成
- ・ユネスコ無形文化遺産の「山・鉾・屋台行事」や、全国トップの登録数を誇る国指定重要無形民俗文化財をはじめとした、祭り・行事を活用した誘客
- ・「あきた美人」を育んできた歴史・文化や、日本酒等の発酵食文化など、本県が誇る「食」を活用した観光地づくり
- ・冬の暮らしやマタギ文化などの秋田ならではの生活文化、さくらんぼ狩りやきりたんぼ作りなどの農山漁村体験、観光地のライトアップなどのナイトアクティビティ、県内各地におけるスポーツや芸術文化活動等の、体験型コンテンツとしての積極的な活用
- ・サイクリングやトレッキング、スノーアクティビティなどを活用した通年型観光の推進
- ・五能線、秋田内陸縦貫鉄道、由利高原鉄道等を活用した誘客の促進
- ・「インスタ映え」を意識した観光地づくり
- ・移住定住への入り口となる滞在型・体験型観光の促進
- ・世界自然遺産である白神山地におけるエコツーリズムの推進
- ・小・中学校における全国トップレベルの学力や、新エネルギー拠点の集積など秋田の強みを生かした誘客の促進



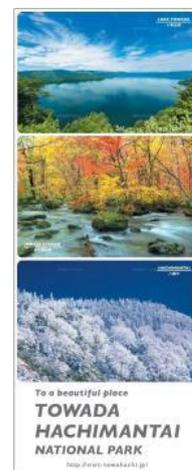
秋田犬とのふれあい体験

取組②：東北各県のコンテンツの融合による広域周遊ルートの形成

本県をはじめ東北各県が誇る、魅力的な自然や温泉、スキー・スノーボード等の冬のアクティビティや、上質な日本酒、個性ある食文化などを組み合わせ、東北6県が連携を強化して国内外に売り込むことにより、広域周遊ルートの形成を図ります。

【主な取組】

- ・東北観光推進機構等と連携した「日本の奥の院・東北探訪ルート」の充実
- ・「国立公園満喫プロジェクト」を契機とする十和田・八幡平観光のブラッシュアップ
- ・白神山地や鳥海山、栗駒山等の周辺における隣県との連携促進
- ・桜まつり、樹氷、食文化など共通するキーワードによる周遊観光の促進



十和田・八幡平観光のブラッシュアップ

方向性(2)：観光客のニーズに対応した受入態勢の整備と、観光人材・事業者の育成

ICTの活用やおもてなし運動の推進などにより、観光客のニーズにきめ細かく対応できる受入態勢の整備を進めるとともに、観光産業を支える人材等の育成や、県内各地における観光地域づくりに向けた推進体制の構築を促進します。

取組①：旅の満足度の向上に向けた受入環境の充実

地域の拠点となる宿泊施設の魅力づくりや、二次アクセスの整備、観光事業者等によるおもてなしの充実など、観光客の旅の満足度の向上に向けた受入環境の整備と充実を図ります。

【主な取組】

- ・地域への集客の核となる魅力的な宿泊施設づくりの促進
- ・新たな誘客拠点となるホテルなどに対する国内外からの建設投資の促進
- ・「国立公園満喫プロジェクト」等による、十和田・八幡平国立公園をはじめとした自然公園における受入態勢の強化
- ・乗合タクシー、シャトルバス等による二次アクセスの整備と利便性向上
- ・多言語対応アプリ「アキタノNAVI」によるきめ細かな観光・交通情報の提供と、利用状況データのマーケティングへの活用
- ・秋田県観光連盟に設置した「あきた旅のサポートセンター」の利活用促進
- ・県を挙げた「秋田おもてなし運動」の充実と、観光施設や宿泊施設などの顧客満足度の向上



男鹿半島あいのりタクシー
なまはげシャトル

乗合タクシーによる
二次アクセス

取組②：インバウンドに対応した受入態勢の整備促進

観光地における多言語表記の充実やワンストップサービス機能の強化などにより、外国人旅行者の受入態勢の整備を図ります。また、本県の空港と近隣の空港を結び付けた広域周遊ルートの充実を図ります。

【主な取組】

- ・外国人旅行者に対応した多言語表記の充実や二次アクセスの整備促進
- ・多言語対応アプリ「アキタノNAVI」によるきめ細かな観光・交通情報の提供と、利用状況データのマーケティングへの活用（再掲）
- ・オープンデータやビッグデータを活用した新たな情報提供システムの導入促進
- ・観光案内所など県内各地の観光施設における、国・地域ごとの特性を踏まえたインバウンド対応力のレベルアップへの支援
- ・観光施設や宿泊施設におけるシームレスな通信環境や、キャッシュレス化など決済環境の整備促進
- ・多言語翻訳機能等に関する最新技術の利活用促進
- ・「モーグルの聖地」たざわ湖スキー場を核とした観光地域づくりの推進
- ・「国立公園満喫プロジェクト」等による、十和田・八幡平国立公園をはじめとした自然公園における受入態勢の強化（再掲）
- ・県内空港や五能線など本県の交通インフラを活用した周遊ルートや、仙台空港をゲートウェイとした周遊ルートの構築
- ・魅せる酒蔵などを秋田ならではの誘客のツールとする「発酵ツーリズム」の構築



「アキタノNAVI」

取組③：観光産業を支える人材や事業者の育成

本県の観光産業全体の底上げを図るため、ビジネスとしての観光産業を支える人材や、地域の

中核となる宿泊施設、着地型旅行商品の造成を担う県内事業者などを支援します。

【主な取組】

- ・地域の観光振興をリードする経営者の育成
- ・営業、おもてなし、情報発信など、専門性の高いスキルを持った人材の育成
- ・体験型観光の関連事業者や、観光ボランティアガイド等の育成、スキルアップ
- ・インバウンドに対応したランドオペレーター機能の充実
- ・着地型旅行商品づくりを担う県内事業者の育成
- ・世界自然遺産「白神山地」の魅力を分かりやすく伝えるガイドの育成

取組④：幅広い事業者やサポート組織が結集した受入態勢の構築

多彩な地域資源を誘客コンテンツとして活用し、国内外からの観光客に満足していただくため、観光事業者や交通事業者のみならず、農林水産業や食品産業、伝統行事の関係者やスポーツ関係者など、幅広い主体が連携し、それぞれの役割を果たしながら観光地域づくりを推進する体制の構築を促します。

【主な取組】

- ・「秋田の観光創生推進会議」を母体とした、官民一体となった誘客プロモーションやおもてなし運動の推進
- ・秋田県観光連盟による、民間事業者や地域が主導する受入環境整備等への支援
- ・DMOの形成の促進と活動への支援



DMO形成に向けた研修会

方向性(3)：ターゲットを見据えた誘客プロモーションの展開

国内外における本県の認知度向上や県内への誘客拡大を目指し、首都圏等において、秋田犬の活用などによる効果的な誘客プロモーションを展開するとともに、国・地域ごとに最適な手法やチャネルを活用したインバウンド誘客を推進します。

取組①：首都圏等における効果的な誘客プロモーションの展開

首都圏や隣県等において、秋田犬など秋田ならではのコンテンツを活用しながら、交通事業者や旅行事業者等との連携による効果的な誘客プロモーションを展開します。

【主な取組】

- ・首都圏等における「秋田犬」をキラーコンテンツとする集中プロモーションの実施
- ・交通事業者や旅行事業者との連携による、官民一体となった観光キャンペーン等の実施
- ・隣県や北海道における誘客イベント等の開催
- ・本県の特性を生かした「高質な田舎型」のMICE^(※)や教育旅行の誘致に向けた、市町村等と連携した推進態勢の強化



秋田の魅力を伝えるポスター

※ MICEとは、企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(インセンティブ旅行)(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)といった、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

取組②：ターゲットを明確にしたインバウンド誘客の推進

台湾、韓国、タイ、中国などの重点市場を中心に、国・地域ごとの特性やターゲットの動向等に的確に対応したプロモーションを展開しながら、引き続きインバウンド誘客に取り組むとともに、欧米諸国、オーストラリア、東南アジア諸国など、新たなマーケットの開拓を図ります。



タイで開催した秋田観光セミナー

【主な取組】

- ・東北観光推進機構や東北各県との連携による海外プロモーションの展開
- ・重点市場に対するトップセールスや、旅行博での観光PR等の実施
- ・対象市場の特性に対応した、SNSやメディア等の効果的な活用
- ・東京、京都、北海道などを訪れている外国人旅行者をターゲットとした誘客プロモーションの実施
- ・仙台空港をゲートウェイとした誘客プロモーションの拡充
- ・「AKITA里山サイクリング」の推進による誘客の促進
- ・「食」と「観光」の相乗効果を見据えた一体的なプロモーションの展開
- ・大規模スポーツ大会の開催や海外ナショナルチームの県内合宿を契機とした、スポーツを目的とする外国人の誘客
- ・外国人旅行者の潜在的なニーズや動向を把握する、オープンデータやビッグデータを活用したデジタルマーケティングの実施
- ・秋田の特性を生かした「高質な田舎型」のMICEや教育旅行の誘致に向けた、市町村等と連携した推進態勢の強化（再掲）

方向性(4)：多様なメディアや新たな手法を活用した秋田ファンの拡大

国内外の多様なメディアやデジタルマーケティングなど新たな手法を活用し、情報をターゲットに効果的に届けることにより、新たな秋田ファンの獲得と誘客の拡大を図ります。

取組①：魅力の発信と情報交流による認知度の向上と誘客の促進

「あきたびじょん」で表現した統一イメージ（高質な田舎）に基づき、様々な媒体により本県の魅力をアピールし、秋田ファンの拡大を図るとともに、WEBマガジン等を活用した新たな秋田の楽しみ方の提案などにより、本県への人の動きを創出します。



フェイスブックページ「あきたびじょん」

【主な取組】

- ・専門家の助言・指導等による、統一イメージに沿ったデザイン制作の実施
- ・フェイスブック「あきたびじょん」などソーシャルメディアによる情報の交流
- ・デジタルマーケティング等の手法を取り入れた情報発信の最適化と、観光客との結び付きの強化
- ・「あきた音楽大使」や「あきた美の国大使」等の活用による本県の魅力の発信
- ・あきたびじょんWEBマガジン「なんも大学」等の発行
- ・本県を舞台とするテレビドラマの制作や、本県での映画ロケ等の誘致に向けた取組の推進

- ・県内の観光地やイベント会場等における観光客と秋田犬とのふれあい交流の実施

取組②：様々なチャネルを活用した国内外への情報発信

国内外の旅行形態が団体型から個人型に大きく変化していることを踏まえ、県が運営する多言語によるソーシャルメディアを充実させるほか、パワーブロガーや県内在住の留学生などを活用して本県魅力を発信し、首都圏や海外の駅構内等で広告を掲出するなど、様々なチャネルを活用した情報発信を行うことにより、誘客を促進します。

【主な取組】

- ・総合観光サイト「あきた・ファン・ドットコム」における多言語での情報提供
- ・多言語対応アプリ「アキタノNAVI」によるきめ細かな観光・交通情報の提供と、利用状況データのマーケティングへの活用（再掲）
- ・口コミによる情報拡散効果を意識した、各国別ソーシャルメディアによるタイムリーな情報発信
- ・海外のパワーブロガーの招へいや、現地著名人の活用、留学生など県内在住外国人の活用などによる、本県魅力の海外への発信
- ・首都圏や海外の駅構内等での広告掲出など、様々な媒体の活用
- ・対象市場の特性に対応した、SNSやメディア等の効果的な活用（再掲）
- ・デジタルマーケティング等の手法を取り入れた情報発信の最適化と、観光客との結びつきの強化（再掲）



パワーブロガーを招へいた
ファームツアー

方向性(5)：国内外のクルーズ船の誘致と受入環境の整備

近年全国的に高まりを見せているクルーズ需要を確実に本県に取り込み、観光誘客と地域の活性化を図るため、クルーズ船寄港増加に対応した受入環境の整備を推進するとともに、官民一体によるクルーズ振興に取り組みます。

取組①：クルーズ船の寄港拡大に向けた誘致活動の推進

交通事業者や観光関係者など幅広い主体が一体となって戦略的な誘致活動や情報発信を行い、クルーズ船の本県への寄港拡大を図ります。

【主な取組】

- ・官民連携組織である「あきたクルーズ振興協議会」による誘致活動やポートセールス等の実施
- ・環日本海クルーズ推進協議会等の広域連携組織を母体とした、海外船社幹部の招へいなど誘致活動の推進
- ・船社や旅行会社を対象としたクルーズセミナーや商談会の実施

取組②：訪日クルーズ旅客の受入態勢の構築

クルーズ船を利用し寄港した観光客に、本県の観光を満喫していただくため、県内の観光情報の提供やクルーズ船と連動したツアー商品の造成などを行い、クルーズ船寄港時の満足度の向上

を図ります。

【主な取組】

- ・秋田犬や伝統行事等による出迎えや、出港時の大曲の花火の打上げ等、本県の魅力をPRする歓送迎イベントの実施
- ・寄港時における着地型周遊観光ツアーの造成支援
- ・県内各地の観光案内所や観光事業者等におけるインバウンド対応力のレベルアップ支援（再掲）
- ・多言語対応アプリ「アキタノNAVI」によるきめ細かな観光・交通情報の提供と、利用状況データのマーケティングへの活用（再掲）



花火でお見送り

取組③：クルーズ拠点の形成と港湾の機能強化

新たな秋田港港湾計画に基づき、ポートタワーセリオン一帯をクルーズ拠点として整備し、クルーズ船の受入環境の充実と観光客の利便性向上を図ります。

また、クルーズ船の増加と大型化に対応するため、港湾施設の整備を推進します。

【主な取組】

- ・クルーズ拠点から背後市街地への周遊ルートの形成などによる、「みなとまちづくり」の推進
- ・秋田市中心部などへのアクセス向上に向けた取組の推進
- ・クルーズ船の2隻同時接岸に向けた受入環境の強化
- ・クルーズ船の大型化に対応した港湾施設の整備

4 施策の数値目標

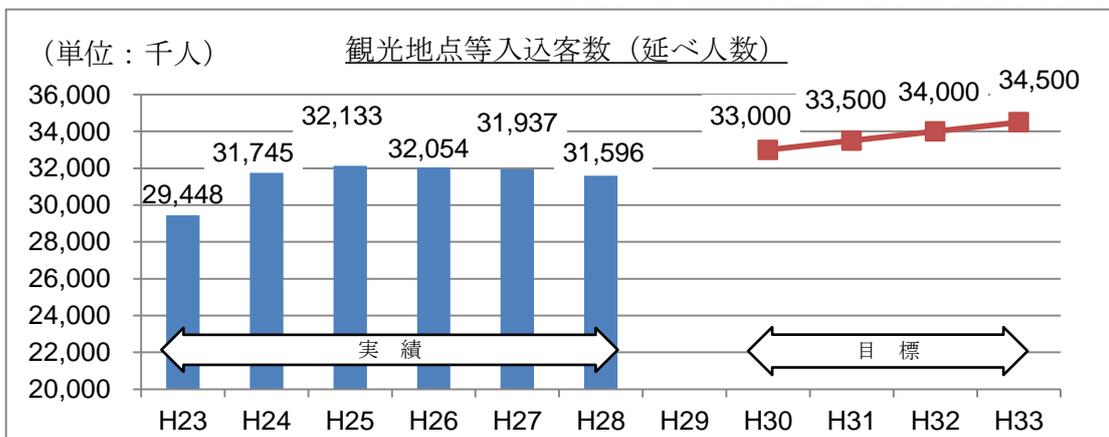
(1) 代表指標

①観光地点等入込客数（延べ人数）（単位：千人）

本県観光の「総合的な誘客力」の強化を通じて本県への誘客と観光消費の拡大を目指すことから、県内の観光地点やイベントを訪れる延べ人数を指標とします。

現状値(H28)	目標値(H30)	目標値(H31)	目標値(H32)	目標値(H33)
31,596	33,000	33,500	34,000	34,500

（出典：県観光戦略課「秋田県観光統計」）



※ 2011年（平成23年）から調査基準が変更されたため、2010年（平成22年）の実績は記載していない。

(2) 成果指標、業績指標

①延べ宿泊者数（単位：千人泊）				
県内での観光消費の拡大を目指すためには、宿泊者数の増加が重要であることから、県内の宿泊施設における延べ宿泊者数を指標とします。				
現状値(H28)	目標値(H30)	目標値(H31)	目標値(H32)	目標値(H33)
3,400	3,500	3,600	3,700	3,800
（出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」）				
②外国人延べ宿泊者数（単位：人泊）				
拡大を続けているインバウンド市場へのアプローチを強化し、海外からの誘客の更なる拡大を目指すことから、県内の宿泊施設における外国人の延べ宿泊者数を指標とします。				
現状値(H28)	目標値(H30)	目標値(H31)	目標値(H32)	目標値(H33)
66,950	125,000	150,000	175,000	200,000
（出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」）				
③クルーズ船の寄港回数（単位：回）				
クルーズ船の寄港拡大による国内外からの観光客の増加を目指すことから、外航クルーズ船及び内航クルーズ船の県内港湾への寄港回数を指標とします。				
現状値(H28)	目標値(H30)	目標値(H31)	目標値(H32)	目標値(H33)
15	26	28	30	32
（出典：県港湾空港課調べ）				

施策4-2：「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進

1 施策のねらい

「きりたんぼ」や「稲庭うどん」などの本県の特産品に加え、「AKITA雪国酵母」などのオリジナル酵母による高品質な日本酒の開発促進や、本県独自の「あめこうじ」を活用した商品群の拡大などにより、市場での優位性を確保するとともに、食品産業を牽引する意欲ある人材や食品事業者への支援等を通じ、商品力の向上を図ります。

また、首都圏に加え、県産食品の更なる認知度向上が必要な関西、九州などの国内市場で販路を拡大するとともに、海外市場への販路開拓を積極的に推進します。

さらに、県産食品の輸出とインバウンド誘客の連携強化を図ることにより、海外における「秋田の食」のブランド化と、食の魅力による海外からの誘客拡大の相乗効果が見込まれる取組を展開します。

2 施策の視点

製造品出荷額等が東北最下位にある本県の食品産業を振興するためには、県産食品の商品力を高めながら国内外に積極的に売り込んでいくことが必要です。

そのためには、県産食品のブランディングを戦略的に展開し、国内外で本県の「食」のプレゼンスを高めるとともに、本県の「食」の強みと市場ニーズのマッチングによる「売れる商品開発」を推進することが求められています。

また、様々な企業との連携やアンテナショップの機能強化を通じた効果的なマーケティング活動やプロモーションを行い、販路の拡大を図るとともに、対象国や品目を戦略的に選定し実態に即した支援を行うことにより、県産食品の輸出を促進することが重要です。

さらに、本県には、地域の風土や歴史に裏打ちされた豊かで多彩な食文化が存在することから、これを誘客にも活用する視点が欠かせません。

こうした視点に立って、本施策については次の4つの方向性に基つき、取組を進めます。

3 施策の方向性と取組

方向性(1)：秋田の「食」の柱となるオリジナルな商品の開発とブランディング

秋田の「食」の強みと市場ニーズとのマッチングを進め、売れるオリジナル商品を数多く生み出すとともに、戦略的なブランディングを展開し、国内外で県産食品のプレゼンスを高めます。

取組①：売れる商品づくりにつながるネットワークや人づくり

食品関連業者のネットワークの拡大や本県の食品産業を牽引する人材の育成などを支援し、食品事業者同士が様々なつながりを構築できる機会を提供することにより、商品開発力や課題解決力の向上を図ります。

【主な取組】

- ・商品開発や課題解決につながる事業者連携の基盤となるサポートネットワークの形成
- ・総合食品研究センターにおける企業相談機能の充実
- ・総合食品研究センターのオープン・ラボ等を拠点とする人材育成

取組②：秋田を代表する食品ブランドの確立と強化

日本酒や発酵食品等に代表される県産食品について、更なる高品質化によるブランドの確立や強化を図り、国内外で本県の「食」を選択するファンを増やすことにより、競争が激化する食品業界において販売量やシェアの拡大を図ります。

【主な取組】

- ・高品質な日本酒の製造やいぶりがっこの品質管理などブランドの強化に向けた支援
- ・地理的表示保護制度（GI）等の活用による「しょつつる」等のブランド確立に向けた支援
- ・品質向上や販売促進、PR等に関する総合的なブランド戦略の推進



いぶりがっこの「いぶし」工程

取組③：本県の強みを生かした次世代の商品開発

本県オリジナルの発酵技術や多彩な農産物などを活用した売れる商品づくりを進めるため、各種商談会やアンテナショップ等を通じてマーケット動向の的確な把握に努め、商品開発から販売までの一貫した戦略のもとで、総合食品研究センターの技術支援などと併せ、次世代の商品開発を促進します。

【主な取組】

- ・本県オリジナルの「あめこうじ」の更なる磨き上げなどによる、市場優位性を持った次世代商品の開発
- ・県産農産物を活用した介護食品（スマイルケア食）の開発と商品化
- ・発酵食品に加え、米菓や、米加工品等をも本県食品の新たな基幹分野に育成するための、商品開発と販売促進への集中的な支援
- ・総合食品研究センターにおける企業相談機能の充実（再掲）



あきた食のチャンピオンシップ

方向性(2)：食品製造業の競争力強化（再掲）

国内外の市場で勝ち抜くため、経営基盤の強化や事業拡充を進めようとする食品事業者の取組を支援し、食品製造業の競争力強化を図ります。

取組①：生産性の向上と事業拡充

生産性向上や加工技術の向上等への取組に対し支援するとともに、人材の育成や、事業者間連携による事業活動の拡充を促進します。

【主な取組】

- ・生産性向上に向けたカイゼン活動や、自社の加工技術向上に取り組む事業者への支援
- ・市場性の高い商品の開発や製造に係るスキルを持った人材の育成
- ・県内食品事業者による事業者間連携等の支援

方向性(3)：幅広いパートナー企業や流通チャネルを活用した販路の拡大

関連する様々な企業との連携促進やアンテナショップの機能強化などを通じた従来のプロモーションに加え、デジタルマーケティングやネット販売などの新たな手法やチャネルを活用し、県産食品の販路を拡大します。

取組①：幅広いネットワーク企業と連携した売り込みの強化

民間企業と連携し、多様なマーケットへの販路開拓を図ります。また、県産食品を効果的に大消費地に流通させるため、首都圏に次ぐマーケットとして、関西や九州への販路拡大を目指します。

【主な取組】

- ・国内外の企業との新たな連携による商品化やPRへの支援
- ・流通事業者が開催する商談会や、加工食品など部門別商談会への出展を支援
- ・関西、東海及び九州エリアにおける、大阪事務所、名古屋事務所及び福岡事務所を核とした、新たな販路の開拓
- ・県内食品事業者による本県独自の土産品等の開発や磨き上げ、販売店との商談等への支援
- ・一般消費者への販売促進も視野に入れたマッチング商談会の機能拡充
- ・国内外への販路拡大に向けたネット販売等の強化に対する支援



首都圏で開催した県産食品フェア

取組②：アンテナショップの機能強化と戦略的なプロモーション

「あきた美彩館」（東京都港区）と「みちのく夢プラザ」（福岡市中央区）の機能強化により、県産食品の販路をより一層拡大します。

【主な取組】

- ・外国人や若年層、企業などをターゲットとした、アンテナショップの客層拡大と発信力強化
- ・アンテナショップを拠点とする、日本酒と県産食品を一体的にPRするイベントの実施
- ・ネット販売やデジタルマーケティングなどを活用した販路の拡大
- ・アンテナショップ近隣の百貨店等での物産展やイベント等での出店など、店舗外販売の強化



県の東京アンテナショップ

取組③：食品流通に係る課題への対応

民間事業者との連携により、首都圏等に向けた流通ルートの見直しなどに取り組み、流通コストの削減など、本県の食品流通に係る課題への対応を図ります。また、県産食品を効果的に大消費地に売り込むため、地場の中間流通事業者による販路拡大を促進します。

【主な取組】

- ・運送事業者と連携した地域ごとの集荷場所の拠点化や混載による共同配送など、効率的な配送システムの構築に向けた検討と取組の推進
- ・隣県等との共同による輸出品の混載輸送の実現に向けた検討と取組の推進

方向性(4)：エリアやターゲットを戦略的に選定した秋田の「食」の輸出拡大と、独自性の高い誘客コンテンツとしての活用

海外での戦略的なブランディングや商流・物流の構築を推進し、秋田の「食」の輸出を拡大するほか、「食」の魅力を誘客コンテンツとして効果的に活用し、インバウンド誘客につなげます。

取組①：輸出対象国の実態に即した戦略的支援

輸出対象国や品目を戦略的に選定した上で、既に現地に展開している事業者との連携や人的ネットワークを活用した商流や物流の開拓を図るとともに、アジア市場での輸出促進を見据え、欧米でのブランディングを図るなど、効果的なプロモーションを展開します。

【主な取組】

- ・対象国のニーズに対応したマーケティングや戦略的な商品選定に係る支援
- ・対象国の消費者の嗜好等に合わせた商品改良への支援
- ・パリなど欧米でのブランディングを反映させたアジアでの販路の拡大



シンガポールでの秋田フェア

取組②：輸出に取り組む事業者の拡大

輸出に意欲的な事業者に対し、対象国の文化や商習慣、関税などに関する情報を提供するとともに、事業者が継続的に利用できる商流や物流を構築することで、輸出を促進します。

【主な取組】

- ・海外取引に関するガイドブックの作成
- ・海外向けラベルの作成や成分検査など、商品の輸出対応を行う事業者における態勢づくりの促進
- ・対象国の実情に合わせた商流や物流ルートの構築と事業者への提案

取組③：県産食品の輸出とインバウンド誘客の連携強化

県産食品の輸出プロモーションとインバウンド誘客を効果的に連携させることにより相乗効果を発揮させ、海外における「秋田の食」のブランド化を図るとともに、食の魅力による海外からの誘客を拡大します。

【主な取組】

- ・本県独自の食文化の誘客コンテンツとしての磨き上げと、効果的な活用
- ・魅せる酒蔵などを秋田ならではの誘客のツールとする「発酵ツーリズム」の構築（再掲）
- ・「食」と「観光」の相乗効果を見据えた一体的なプロモーションの展開（再掲）



酒蔵を活用した「発酵ツーリズム」

4 施策の数値目標

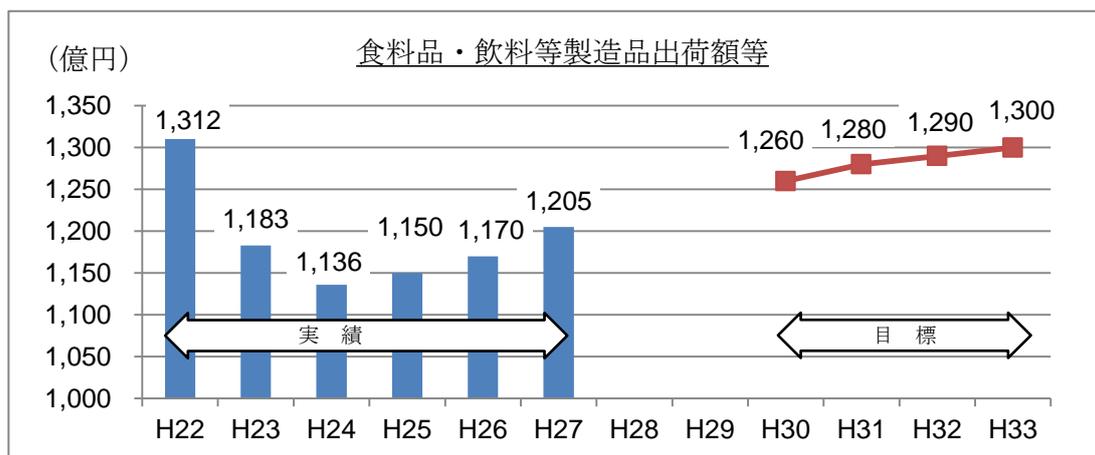
(1) 代表指標

①食料品・飲料等製造品出荷額等（単位：億円）

県産食品の商品力向上や販路拡大を通じた販売額の増加を目指すことから、県内の食料品及び飲料等製造事業者の製造品出荷額等を指標とします。

現状値(H27)	目標値(H30)	目標値(H31)	目標値(H32)	目標値(H33)
1,205	1,260	1,280	1,290	1,300

(出典：経済産業省「工業統計調査」)



(2) 成果指標、業績指標

①加工食品・日本酒の輸出金額（単位：千円）

海外での戦略的なブランディングや商流・物流の構築を通じた秋田の「食」の輸出拡大を目指すことから、県内の事業者による加工食品・日本酒の輸出金額を指標とします。

現状値(H28)	目標値(H30)	目標値(H31)	目標値(H32)	目標値(H33)
537,688	639,000	697,000	761,000	831,000

(出典：県秋田うまいもの販売課調べ)

施策4－3：文化の発信力強化と文化による地域の元気創出

1 施策のねらい

多くの訪日客を迎える東京オリンピック・パラリンピックは、本県の文化を国内外にアピールできる絶好のチャンスであることから、多彩な文化事業を実施し、秋田ならではの文化を国内外に発信することで、交流人口の拡大につなげていきます。

また、本県の文化を発展させ、次の世代に継承していくため、文化団体の活動の活発化や若手の人材育成に取り組むとともに、本県文化の中核拠点となる文化施設の整備を推進します。

2 施策の視点

国や東京オリンピック・パラリンピック大会組織委員会と連携し、様々なオリンピック関連イベントを活用するとともに、特色ある文化事業を企画し、本県の文化を効果的に国内外に発信することで、地域文化への理解促進と観光資源としての活用を進め、交流人口の拡大につなげていく必要があります。

また、芸術文化団体の活動促進に向けて、若者をはじめとした多くの県民が参加・活動しやすい環境の整備を進めるとともに、高質な文化に触れる機会を創出していくことが求められています。

こうした視点に立って、本施策については次の3つの方向性に基づき、取組を進めます。

3 施策の方向性と取組

方向性(1)：秋田ならではの文化資源のPRと、文化を通じた交流人口の拡大

東京オリンピック・パラリンピックを、本県文化を国内外にアピールする絶好のチャンスと捉え、多彩な文化事業を実施し、秋田ならではの文化を国内外に発信することで、交流人口の拡大と地域の元気創出を図ります。

取組①：東京オリンピック・パラリンピック等を契機とした文化プログラムの推進

東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラムへの県内の文化事業の参画を促すため、国が日本文化の魅力をオールジャパンで発信する「beyond2020 プログラム」の推進に当たり、県がその認証機関となり、本県の文化を国内外に発信するとともに、東京オリンピック・パラリンピック終了後の継続的な交流人口の拡大につなげていきます。

【主な取組】

- ・本県各地域の文化事業を「beyond2020 プログラム」に位置づけ、国内外に発信
- ・文化プログラムを先導する「東京キャラバン」の本県での開催
- ・大規模文化イベントを支援する文化プログラム助成の実施

取組②：文化資源の活用による地域の元気創出

秋田ならではの文化資源を活用し、県内各地で特色ある文化事業を実施することにより、交流人口を拡大し、地域の賑わいを創出します。

【主な取組】

- ・地域の文化資源を活用した交流人口の拡大につながる大規模文化イベントへの支援
- ・石井漠・土方巽を輩出した秋田を「舞踊・舞踏の聖地」として世界に発信する、舞踊・舞踏フェスティバル等への支援
- ・国指定重要無形民俗文化財の数が全国一である本県を国内外にアピールする、伝統芸能の祭典等の開催支援
- ・本県に縁のある芸術家との連携などによる、国内外の視点を生かした芸術文化活動の促進



文化イベント「新・秋田の行事」

取組③：文化情報の発信強化

様々なメディアを活用して情報を発信するほか、文化情報を発信するウェブサイトの充実を図ります。

【主な取組】

- ・情報雑誌やSNS等を活用した情報発信
- ・あきた文化情報サイト「ブンカDEゲンキ」などの充実
- ・あきた文化交流発信センター等における、秋田民謡など本県の文化に触れる機会の提供

方向性(2)：文化団体の活動促進と次代を担う人材の育成

若者をはじめとした多くの県民が参加・活動しやすい環境の整備を推進しながら、本県文化の活動を促進し、文化の継承を図ります。

取組①：次代を担う若手人材の育成

次代の文化を担う若者を育成するため、若者の発表機会の充実や文化活動への助成を行うなど、若者の文化活動支援に取り組みます。

【主な取組】

- ・豊かな感性や創造力をもった青少年の育成を図るとともに、児童生徒に優れた芸術・文化に触れる鑑賞機会を提供
- ・「青少年音楽コンクール」、「あきたの文芸」をはじめとした、書道、工芸、絵画などの作品発表やパフォーマンスの「場」の提供による、若手アーティストの育成支援
- ・若者の文化活動への参画促進に向けた啓発活動の充実と、若者が主体的に企画・実施する活動への支援

取組②：文化活動の促進

市町村や民間団体等と連携し、多くの文化事業を集中的に実施する「あきた県民文化芸術祭」を毎年9月から11月に開催する等により、文化活動を促進します。

【主な取組】

- ・市町村や文化団体が文化事業を集中的に実施する「あきた県民文化芸術祭」の開催

- ・民間団体等が行う音楽、演劇、舞踊等の公演や鑑賞会などの芸術文化活動への支援
- ・県民の文化活動をサポートする統括的な文化団体の機能強化への支援
- ・メディアアートなど、新たな芸術文化活動の促進

取組③：文化の継承事業の推進

県民の文化への関心を高め、多くの県民が文化活動に携わるなど文化の裾野を広げるために、県民の作品発表の機会を設けるとともに、優れた文化活動や作品を顕彰するなど、芸術文化活動に取り組みやすい環境づくりを推進します。

【主な取組】

- ・秋田県芸術選奨などによる優れた作品や地域に貢献している活動の顕彰
- ・「秋田県美術展覧会」や「青少年音楽コンクール」、「あきたの文芸」など、発表し競い合う機会の提供
- ・あきた文化交流発信センターの運営による、文化団体が気軽に発表し、県民が日常的に文化に触れる場の提供
- ・無形民俗文化財の保存と伝承に取り組んでいる団体への支援



大館市に伝わる代野番楽

方向性③：本県文化の中核拠点となる文化施設の整備

県民会館閉館中における文化団体の活動促進を図りながら、本県文化の中核拠点となる文化施設の整備を着実に推進します。

取組①：県・市連携文化施設の整備

文化を創造していく中核拠点として、県全体の文化振興の役割を担う文化施設について、2021年度中の開館に向け、文化団体の活動促進を図りながら、着実に整備を推進します。

【主な取組】

- ・ワークショップや芸術文化団体等の意見を踏まえた、県・市連携文化施設の整備の推進
- ・事業者の創意と工夫を生かした施設運営とするための運営管理計画の策定
- ・県民会館閉館中における文化団体への活動支援と、各地域の文化施設の活用による地域芸術文化の振興
- ・文化施設の整備に向けたプレ事業及びオープニングイベントの実施

4 施策の数値目標

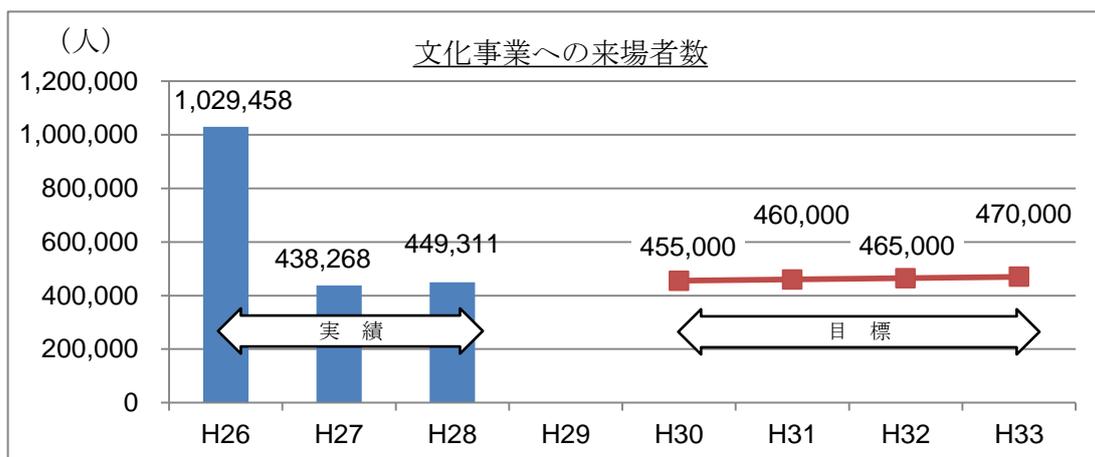
(1) 代表指標

① 文化事業への来場者数 (単位：人)

多彩な文化事業を実施し、秋田ならではの文化を国内外に発信することにより交流人口の拡大を目指すことから、県の主催事業や助成事業、後援事業など、県が関与する文化事業への来場者数を指標とします。

現状値(H28)	目標値(H30)	目標値(H31)	目標値(H32)	目標値(H33)
449,311	455,000	460,000	465,000	470,000

(出典：県文化振興課調べ)



※ 2014年度(平成26年度)の実績値は、「国民文化祭・あきた2014」への来場者数を集計したもの。

(2) 成果指標、業績指標

① 「beyond2020プログラム」認証事業数 (単位：件)

本県文化を国内外に発信することにより交流人口の拡大を目指すことから、オールジャパンで日本の文化を国内外に発信する「beyond2020プログラム」への県内における認証事業数を指標とします。

現状値(H28)	目標値(H30)	目標値(H31)	目標値(H32)	目標値(H33)
—	20	30	40	50

(出典：県文化振興課調べ)

施策4-4：「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大

1 施策のねらい

スポーツは、県民の健康づくりに貢献し、多様なネットワークを生み出し、お互いの「絆」を強くするとともに、県民に感動と誇りを、地域に活気と賑わいをもたらし、明るく豊かで活力に満ちた社会づくりに寄与することから、引き続き「スポーツ立県あきた」を強力に推進する必要があります。

このため、スポーツを「する」「みる」「ささえる」の観点から、スポーツ参画人口の拡大に取り組み、スポーツ活動の基盤となる人材の育成や環境の充実を図るとともに、全国や世界での活躍を見据えた選手の競技力向上や、スポーツを通じた県民の一体感の醸成、交流人口の拡大などによる地域の活性化等を図ります。

2 施策の視点

「スポーツ立県あきた」を具現化するためには、県民が生涯にわたりスポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことができるよう、多様なライフステージに応じたスポーツ環境の整備や、指導者等の人材発掘・育成が重要となっています。

また、県民に夢と希望を与えることのできるトップアスリートの発掘・育成や、一貫指導体制の強化による競技力向上を図るとともに、関係団体等と連携し、トップスポーツチームへの支援や、東京オリンピック・パラリンピックに向けた合宿の誘致等を推進する必要があります。

こうした視点に立って、本施策については次の4つの方向性に基つき、取組を進めます。

3 施策の方向性と取組

方向性(1)：東京オリンピック・パラリンピック等を契機とした、スポーツによる地域活性化と交流人口の拡大

東京オリンピック・パラリンピック等の国際大会を契機としたスポーツ交流の継続・拡大を図るとともに、スポーツ大会の更なる誘致や、トップスポーツチームと地域との連携・協働の促進を図ります。

取組①：スポーツを活用した地域づくりの推進と交流人口の拡大

活力ある地域づくりの促進とスポーツによる交流人口の拡大を図るため、スポーツ大会等の誘致やスポーツツーリズムを推進します。

【主な取組】

- ・大規模スポーツ大会等の誘致・開催
- ・地域資源を活用したスポーツ大会等の企画・開催への支援
- ・東京オリンピック・パラリンピック等に向けた、ホストタウンを基盤とした海外からの事前合宿誘致



モーグルワールドカップ
秋田たざわ湖大会

第4章 戦略4：秋田の魅力が際立つ人・もの交流拡大戦略

- ・東京オリンピック・パラリンピック等の事前合宿を契機とした、海外との継続的なスポーツ交流の促進

取組②：トップスポーツチームと地域との連携・協働の促進

トップスポーツチームへの支援を通じた、応援機運の高まりによる地域の一体感の醸成や、スポーツ参画人口の裾野の拡大、本県のイメージアップ等を図ります。

【主な取組】

- ・ユニフォームや試合会場への本県のロゴマークの掲出等による全国への情報発信
- ・試合会場におけるイベントの実施等による地域の一体感の醸成
- ・スポーツ教室の開催や学校訪問など、チームの地域活動の促進によるスポーツ参画人口の裾野の拡大



ブースターによる一体感ある応援

方向性(2)：全国や世界のひのき舞台で活躍できる選手の発掘と育成・強化

国際競技大会において活躍するなど、県民に夢や希望を与えるアスリートを発掘・育成し、東京オリンピック・パラリンピックに多くの本県関係選手を輩出するとともに、国民体育大会において好成績を挙げることを目指します。

取組①：競技力の向上と次世代アスリートの発掘・育成

国際競技大会等で優れた成績を挙げられる選手を発掘・育成するため、特にジュニア層の強化を競技力向上の柱に据え、各競技団体や関係機関、地域等との連携を図りながら、一貫指導体制を確立します。

【主な取組】

- ・競技力向上連絡協議会の開催と、県体協と連携した選手強化事業の推進
- ・将来有望なアスリートを発見し、育成するためのタレント発掘事業の推進と、選手の潜在能力を開発するための測定会の実施
- ・中学生強化選手指定制度や高等学校強化拠点校制度など、一貫指導を行うための体制の強化
- ・全国や世界で活躍するアスリートやチームへの支援



タレント発掘オーディション

取組②：競技力向上を支える人材の育成と環境整備

優れた指導者を確保・育成し、審判員を養成するとともに、最新のスポーツ医・科学、データ等を活用した選手の強化支援体制を充実させます。

【主な取組】

- ・将来的に優れた指導者としての活躍が期待されるアスリートの就職支援体制の充実
- ・国が策定したカリキュラムの普及・活用による、指導者の育成と審判員養成のための研修会等への支援
- ・秋田県スポーツ科学センターの機能強化による、スポーツ医・科学や様々なデータを活用した、トップアスリートへの多面的で高度な支援
- ・パラスポーツ選手等に対応した競技環境の整備と指導者の育成

取組③：クリーンでフェアなスポーツの推進によるスポーツの価値の向上

本県スポーツ界の誠実性・健全性・高潔性を高め、クリーンでフェアなスポーツを推進することにより、スポーツの価値の一層の向上を目指します。

【主な取組】

- ・アスリートの倫理観や規範意識を含めた人間的成長を促すことのできる指導の推進
- ・スポーツ関係者のコンプライアンス違反や体罰、暴力の根絶に向けた研修等の充実と、競技団体等のガバナンス強化
- ・関係機関と連携したドーピング防止活動の推進

方向性(3)：ライフステージに応じた多様なスポーツ活動の促進

ライフステージに応じた県民の多様なスポーツ活動を促進し、成人のスポーツ実施率を向上させることにより「健康寿命日本一」を目指すとともに、秋田県スポーツ推進委員協議会など本県の地域スポーツを担う団体や組織との連携強化や、活動の充実を図ります。

取組①：スポーツ参画人口の拡大とスポーツを通じた健康増進

県民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む基盤となるよう、誰もが日常的にスポーツに親しむ機会を充実させ、スポーツ参画人口の拡大を図るとともに、「健康寿命日本一」を目指し、「ねんりんピック秋田 2017」の成果を生かしながら、スポーツを通じた健康増進を図ります。

【主な取組】

- ・青・壮年期の日常的なスポーツ習慣の確立やスポーツを通じた生きがいづくりを図るための、スポーツ教室等の開催
- ・「ねんりんピック秋田 2017」及び東京オリンピック・パラリンピックを契機とした県民のスポーツ参画の促進
- ・県民のスポーツへの参画を促す「チャレンジデー」の活用
- ・高齢者の健康増進を図るための「円熟体操」の普及



健康増進を図る「円熟体操」

取組②：スポーツを支える組織の充実と関係団体等との連携

スポーツ大会・イベントの運営サポートを担う団体や組織等との連携強化や組織活動の充実を図るとともに、総合型地域スポーツクラブや企業、大学等との連携による地域のニーズに応じたスポーツライフの創出を図ります。

【主な取組】

- ・住民と行政をつなぐ県スポーツ推進委員協議会との連携強化
- ・県体協や競技団体等との連携強化による地域におけるスポーツの普及
- ・ボランティア団体の育成とネットワークづくり
- ・大学等との連携による、住民主体のスポーツ活動に係る先進事例の調査・分析
- ・総合型地域スポーツクラブや企業等と連携した、スポーツによる地域づくりの促進

方向性(4)：地域のスポーツ活動の基盤となる人材の育成と環境の充実

総合型地域スポーツクラブマネジャーやスポーツ推進委員等、スポーツ施策を推進するマネジメント人材の資質向上を図るとともに、県民に親しまれるスポーツ施設等の計画的な整備・改修を行います。

また、本県のトップスポーツの拠点となり、子供から高齢者まで幅広く集える新たなスタジアムについて、ホームタウンやチーム、関係団体等とともに、整備に向けた取組を進めます。

取組①：総合型地域スポーツクラブの育成支援と地域スポーツ指導者の充実

総合型地域スポーツクラブと関係機関等との連携を図るとともに、総合型地域スポーツクラブに係る制度を整備し、質的充実を図ります。また、スポーツ推進委員等の地域スポーツ指導者の研修機会を充実させ、更なる資質の向上を図ります。

【主な取組】

- ・総合型地域スポーツクラブが持続的に地域スポーツの担い手となるための質的充実を目指した支援
- ・総合型地域スポーツクラブ間のネットワークづくりや自立的な運営に向けた支援を行う中間支援組織の整備
- ・スポーツ推進委員等の研修機会の充実と資格認定制度の整備等による資質向上

取組②：スポーツ施設の充実とスポーツに親しむ環境の整備

スポーツ施設の有効活用や計画的な整備・改修を行うとともに、幅広い県民がスポーツに親しみ、トップスポーツが本県に根ざして活動する環境の整備を推進します。

【主な取組】

- ・既存施設の計画的な整備・改修とバリアフリー化の推進
- ・民間資金等を活用した管理運営や収益力向上による、持続的なスポーツ環境の確保
- ・ホームタウンやチーム、関係団体等とともに、J2基準を満たす新たなスタジアムの整備に向けた取組を推進



県立野球場「こまちスタジアム」

4 施策の数値目標

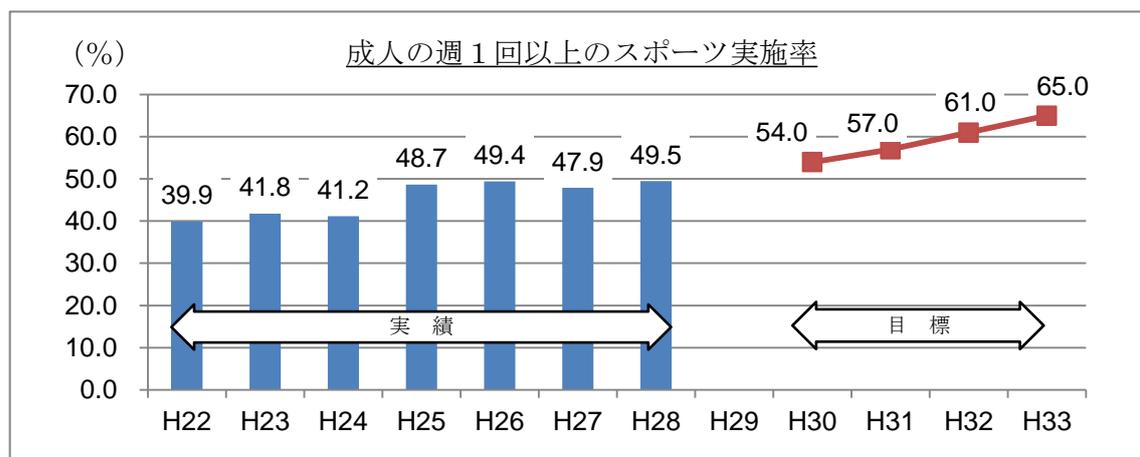
(1) 代表指標

①成人の週1回以上のスポーツ実施率（単位：％）

ライフステージに応じた県民の多様なスポーツ活動を促進し「健康寿命日本一」を目指すことから、継続的に週1回以上のスポーツをしている成人の割合を指標とします。

現状値(H28)	目標値(H30)	目標値(H31)	目標値(H32)	目標値(H33)
49.5	54.0	57.0	61.0	65.0

（出典：秋田県スポーツ推進委員協議会「全県体力テスト・スポーツ実態調査」）



(2) 成果指標、業績指標

①海外からのスポーツ合宿等誘致数（累積）（単位：件）

東京オリンピック・パラリンピック等を契機としたスポーツ交流の継続・拡大を目指すことから、海外ナショナルチームの事前合宿やホストタウンを基盤とした海外とのスポーツ交流等の件数（累積）を指標とします。

現状値(H28)	目標値(H30)	目標値(H31)	目標値(H32)	目標値(H33)
6	12	18	28	33

（出典：県スポーツ振興課調べ）

②国体における天皇杯得点（単位：点）

アスリートの発掘・育成等による本県スポーツの競技力向上を目指すことから、冬季を含む国民体育大会における男女総合得点である天皇杯得点を指標とします。

現状値(H29)	目標値(H30)	目標値(H31)	目標値(H32)	目標値(H33)
989.0	1,000	1,000	1,000	1,000

（出典：（公財）日本体育協会調べ）

施策4-5：県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備

1 施策のねらい

人口減少社会に対応し、時間的距離を縮めて県土のコンパクト化を図るとともに、物流の効率化や交流人口の拡大を目指します。このため、高速道路をはじめとする幹線道路の整備や空港、港湾、高速IC等へのアクセス機能の強化を進めます。

また、道の駅を地方創生の拠点として位置づけ、魅力の向上を図ります。

2 施策の視点

広大な県土を有し積雪寒冷地である本県が、少子高齢化が急激に進み人口が減少していく中で、県全体の活力を維持していくためには、県民の生活や経済活動、地域間の交流を支える交通網の整備、とりわけ道路ネットワークの整備が不可欠です。

このため、高速道路やこれを補完する地域高規格道路、交流・物流拠点へのアクセス道路、地域間交流と県民の生活を支える道路の整備を進めるとともに、道の駅について、情報発信や地域交流の拠点としての基本機能の強化と個性の創出を図る必要があります。

こうした視点に立って、本施策については次の5つの方向性にに基づき、取組を進めます。

3 施策の方向性と取組

方向性(1)：交流や経済を支える高速道路網の形成

企業立地や観光振興など地域の活性化に大きく寄与し、物流コストの軽減や高度医療施設への搬送時間の短縮など、多くの効果が期待される高速道路ネットワークの早期完成に向け、日本海沿岸東北自動車道や東北中央自動車道の事業中区間の整備を促進するとともに、高速道路の安全性確保に向け、秋田自動車道の暫定2車線区間における4車線化の整備を促進します。

取組①：高速道路の整備促進

物流の効率化や交流人口の拡大を図るため、日本海沿岸東北自動車道や東北中央自動車道の早期全線開通に向けた国への要望活動を実施するとともに、県施行区間の整備を進めます。

【主な取組】

- ・日沿道「二ツ井今泉道路」「遊佐象潟道路」「鷹巣西道路（県施行）」等の整備促進
- ・東北中央道「横堀道路」「真室川雄勝道路」の整備促進



整備が進む日本海沿岸東北自動車道
(大館能代空港付近)

取組②：暫定2車線区間の4車線化の整備促進

交通事故の防止や冬期の円滑な交通を確保するため、暫定2車線区間の4車線化の整備を促進します。

【主な取組】

- ・秋田自動車道「北上JCT～大曲IC」間について4車線化の整備促進

方向性(2)：高速道路を補完し、広域交流を促進する幹線道路網の形成

地域間の交流を促進するため、地域高規格道路「盛岡秋田道路」や「大曲鷹巣道路」の整備を促進するとともに、主要都市間の移動時間を短縮し地域間交流を活発化させる国道101号、108号等の幹線道路の整備を進めます。

取組①：地域高規格道路の整備促進

高速道路と一体となって地域間の交流を図る、質の高い地域高規格道路の整備を促進します。

【主な取組】

- ・国道46号「盛岡秋田道路」（仙北市生保内～卒田）の整備促進
- ・国道105号「大曲鷹巣道路」（大覚野峠）の整備推進

取組②：主要都市間を結ぶ幹線道路の整備推進

主要都市間の移動時間を短縮し、観光地間や地域間交流を活発化させる幹線道路について、その整備を推進します。

【主な取組】

- ・国道101号、108号、398号等の整備推進
- ・国道104号（青森県との県境部）の整備に向けた検討

方向性(3)：物流・交流拠点へのアクセス機能の強化

港を拠点として、県内はもとより広域背後地域との人やものの循環・対流を促進するため、高速道路など物流・交流拠点へのアクセス機能の強化を図ります。

取組①：秋田港と秋田北ICを結ぶアクセス道路の整備推進

コンテナ取扱量の増大やクルーズ船の寄港回数の増加など、秋田港を取り巻く環境の変化に対応し、県内のみならず広域背後地域との物流・交流を促進するため、秋田港と秋田北ICを結ぶアクセス道路の整備を推進します。

【主な取組】

- ・秋田港アクセス道路（仮称）の整備推進



秋田港と秋田北IC間

方向性(4)：日々の暮らしを支える生活道路の機能強化

地域の安全・安心の確保や利便性の向上を図るため、日々の暮らしを支える生活道路の機能強化を図ります。

取組①：地域生活に直結する道路整備

地域の生活圏における安全・安心を確保し、交流の活性化や利便性の向上を図るため、災害時に孤立の恐れのある地域のバイパス整備や通学路の安全確保のための歩道整備を進めます。

【主な取組】

- ・ 県道西目屋二ツ井線（荷上場工区）等の道路整備の推進
- ・ 県道角館六郷線（千屋第一工区）等の歩道整備の推進

方向性(5)：地方創生の拠点としての「道の駅」の魅力の向上

道の駅が地域を支え地方創生の拠点として利活用されるよう、基本機能の強化をはじめ、立地環境や地域資源を踏まえた個性の創出を図ります。

取組①：道の駅の機能強化と個性の創出

観光客及び地域住民双方にとって魅力的な拠点とするため、休憩や情報発信といった基本機能に加え、観光振興、防災、福祉等の機能強化を図るとともに、地域特性に応じた個性の創出を図ります。

【主な取組】

- ・ 利用者にわかりやすい案内表示等の基本機能の強化
- ・ 立地環境や地域資源を踏まえた道の駅の個性を創出する計画策定や人材育成への支援

4 施策の数値目標

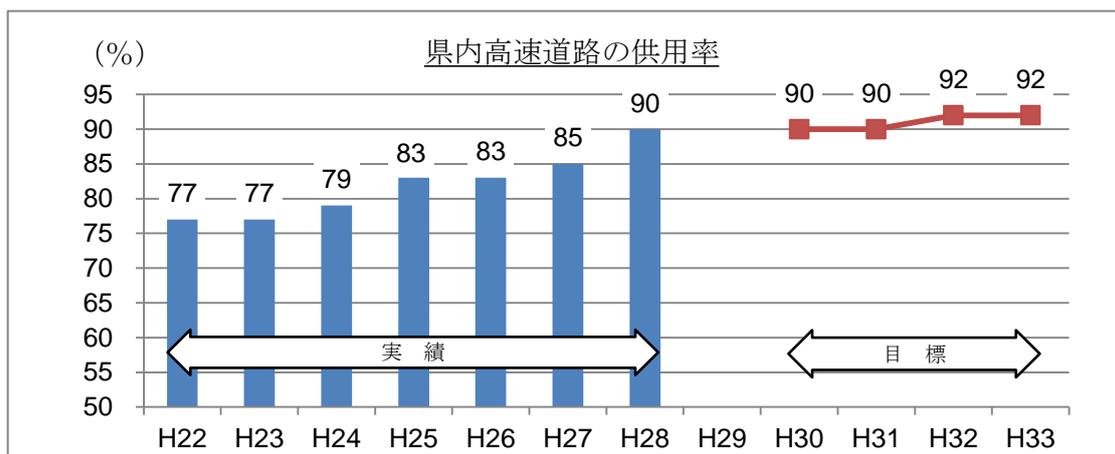
(1) 代表指標

① 県内高速道路の供用率（単位：％）

高速道路ネットワークの早期完成を目指すことから、県内の高規格幹線道路に係る全線の計画延長に対する供用済みの延長の割合を指標とします。

現状値(H28)	目標値(H30)	目標値(H31)	目標値(H32)	目標値(H33)
90	90	90	92	92

（出典：県道路課調べ）



(2) 成果指標、業績指標

① 県管理国道改良率（単位：％）

主要都市間の移動時間を短縮し地域間の交流を活発化させる幹線道路の整備を進めることから、県が管理する国道の実延長に対する、今後の改良予定延長（改良済み含む）の割合を指標とします。

現状値(H28)	目標値(H30)	目標値(H31)	目標値(H32)	目標値(H33)
93.8	93.9	94.0	94.0	94.1

（出典：県道路課「道路現況調査」）

施策4－6：交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築

1 施策のねらい

観光をはじめとした交流人口の拡大や県民や県内企業の社会経済活動の活性化に寄与し、人口減少社会においても持続的に機能する地域の実情に応じた公共交通を確保するため、今後の規制緩和や技術革新も見据え、利便性の高い交通ネットワークの構築を図ります。

2 施策の視点

本県と国内外を結ぶ広域交通ネットワークは、人の交流や物流を支える重要な社会基盤であり、県内産業や観光の振興のほか、地域を活性化していく上で不可欠なものであることから、多様な輸送手段によりアクセシビリティの向上を図り、本県への流動を拡大・強化する必要があります。

また、人口減少の進行や自家用自動車の普及に伴い、生活バス路線や第三セクター鉄道等を取り巻く環境が一層厳しさを増す中で、通学、通院、買い物等の日常生活に欠かせない公共交通を維持・確保していくことが重要です。

さらに、運転手不足の解消や運行の低コスト化といった導入効果が期待される自動運転や、ICTを活用した配車・運行システムなど、第4次産業革命による技術革新を見据えながら、人口減少社会においても、持続可能で地域の実情に応じた多様な公共交通ネットワークの形成を目指します。

こうした視点に立って、本施策については次の4つの方向性に基づき、取組を進めます。

3 施策の方向性と取組

方向性(1)：秋田への流動を支える幹線鉄道等の整備促進と利便性の向上

将来を見据えた首都圏等との鉄道アクセスの更なる時間短縮を目指すとともに、利便性向上による県内流動の促進や物流を含めた本県への海上アクセスの向上を図ります。

取組①：奥羽・羽越新幹線の整備に向けた取組の推進

奥羽・羽越新幹線の整備計画への格上げを目指して、沿線県と協働で調査・研究を進め国等へ提案していくほか、経済団体や市町村など、官民が一丸となって整備に向けた気運の醸成を図ります。

【主な取組】

- ・新幹線を活用した将来ビジョンや費用縮減等を目指した新たな整備手法等に関する、沿線県で構成するプロジェクトチームでの調査研究
- ・「秋田県奥羽・羽越新幹線整備促進期成同盟会」との協働による、官民を挙げた国等への提案・要望活動の実施
- ・シンポジウムの開催や広報パンフレット等による県民等への普及啓発
- ・次世代を担う若者等による、新幹線整備に関する意見交換の実施

取組②：鉄道ネットワークの充実強化

沿線市町村や鉄道事業者と協力しながら利用促進に取り組み、鉄道ネットワークの強化と利便性の向上を目指します。

【主な取組】

- ・通勤、通学、通院、買い物など地域住民による日常的な利用の促進と、マイレール意識の醸成
- ・ダイヤ改正要望等による利便性向上や、観光キャンペーン等を活用した利用促進
- ・秋田新幹線や在来幹線（奥羽本線、羽越本線）鉄道の新型車両導入、既存路線の改良等による、快適性と安全性の向上や高速化に向けた働きかけ
- ・ローカル鉄道（五能線、花輪線、北上線、男鹿線）の車両更新や、秋田駅などターミナル駅での交通アクセスの向上による利便性向上
- ・ローカル鉄道の沿線自治体、利用促進協議会との協働による利活用事業の実施

取組③：フェリー秋田航路の利用促進

海上交通ネットワークを担う秋田航路の維持と利便性の向上を図るため、県内関係団体や運航事業者と連携して、貨物・旅客の両面から利用の促進に取り組みます。

【主な取組】

- ・モーダルシフトや新規貨物輸送等への助成による貨物需要の確保
- ・大口顧客や新規貨物需要開拓のための荷主企業、運送会社等への訪問
- ・竿燈まつりなどの行事や角館、乳頭温泉郷などの主要観光地を巡る県内旅行商品の造成支援
- ・北海道や北陸、信越地方などへの秋田発旅行商品造成への支援
- ・札幌や北関東など就航先背後地域での旅行会社等へのプロモーションの実施



フェリー秋田航路

方向性(2)：空の玄関口を生かした国内外との流動の促進

三大都市圏や海外等と本県とを直接結ぶ重要な交通機関である航空機について、本県の交流の持続的拡大を目指し、路線数の拡大や便数の充実等により輸送力の増強を図り、利便性の高い高速広域交通ネットワークを構築します。

取組①：国内航空ネットワークの機能強化

地元市町村や関係機関と協力しながら利用促進に取り組み、国内航空路線の維持・拡充を図るとともに、LCCを含めた新規航空路線の誘致に取り組みます。また、空港からの二次アクセスや空港施設などの受入態勢等を充実・強化します。

【主な取組】

- ・就航先である札幌、名古屋及び大阪並びに乗り継ぎ利用が見込まれる中四国地域等での、航空利用プロモーション等の実施
- ・森吉山や角館など県内主要観光地を巡る、県内空港を利用した旅行商品造成への支援



秋田空港の国内航空路線

第4章 戦略4：秋田の魅力が際立つ人・もの交流拡大戦略

- ・ 四国や北陸地方など他県空港と連携した、乗り継ぎ相互送客による利用促進
- ・ 航空ダイヤの改善や便数、使用機材の大型化など、航空路線の利便性向上に向けた働きかけ
- ・ LCCを含めた新たな需要が見込まれる新規航空路線の誘致と、他県空港を参考とした新規就航を誘発する支援策の検討
- ・ 乗合タクシー、シャトルバス等による二次アクセスの整備と利便性向上（再掲）

取組②：海外との航空ネットワークの構築

秋田ソウル国際定期便の運航再開に取り組むとともに、秋田空港発着の国際チャーター便の季節定期運航や新たな国際定期航空路線の就航などを目指し、台湾や韓国などの重点市場と本県をダイレクトに結ぶ国際航空路線の充実等を図ります。

【主な取組】

- ・ 秋田ソウル国際定期便の運航再開に向けた取組
- ・ 秋田空港発着の国際チャーター便の季節定期運航や新たな国際定期航空路線の誘致に向けた取組
- ・ 県内空港と台湾、韓国、タイ、中国等の重点市場との国際チャーター便の運航支援
- ・ 県内発着の国際航空路線による本県からのアウトバウンド利用の促進
- ・ 東北各県等との連携による県内空港のエアポートセールスの実施
- ・ 仙台空港をゲートウェイとした誘客プロモーションの拡充（再掲）



国際チャーター便のお出迎え

方向性③：技術革新等を見据え地域の実情に応じた多様な地域公共交通の確保

地域の特性や実情に応じた公共交通を維持・確保するとともに、ICTを活用した配車・運行システムや自動運転などの技術革新も見据えて、持続可能で多様な公共交通ネットワークの形成を目指します。

取組①：地域の実情に応じた公共交通ネットワークの形成

バスや三セク鉄道などそれぞれの交通モードがその地域で果たすべき役割を明確にするとともに、地域の実情や住民ニーズにきめ細かく対応した公共交通ネットワークの形成を図るため、地域公共交通の効率的な再編や持続可能な移動手段の構築を支援します。

また、今後の規制緩和や技術革新を見据え、人口減少社会においても持続的に運行できる効率的で利便性の高い次世代交通の導入に向けた取組を推進します。

【主な取組】

- ・ 市町村や住民と連携した地域公共交通の利便性の向上や再編の促進
- ・ 病院送迎バス等の特定目的利用バスと乗合バス等の地域内での共通利用など、効率的な移動手段の確保に向けた取組の促進
- ・ 貨客混載などの収益改善や生産性向上を目指す交通事業者による新たな取組への支援
- ・ NPOや自治会等が主体となる公共交通空白地有償運送など、住民共助による移動手段の構築への支援



自動運転の実証実験

- ・ICTを活用した配車・運行システムや自動運転など、次世代交通の導入に向けた検討会等の実施

取組②：生活バス路線の維持・確保

市町村や事業者と連携して地域住民の生活バス路線等の利用を促すとともに、地域の生活交通を確保するため、市町村や事業者が行う多様な運行形態に対して支援します。

【主な取組】

- ・生活バス路線等の利用促進に向けた周知啓発
- ・国や市町村と連携した生活バス路線の運行費等への支援
- ・市町村が主体となるコミュニティバスやデマンドタクシー等への支援

取組③：秋田市中心市街地における交通のあり方の検討と取組の推進

中心市街地における公共交通の利便性を確保するとともに、中心市街地を快適に街歩きできるような環境の整備に向けた取組を進めます。

【主な取組】

- ・「中心市街地の交通のあり方に係る研究会」等の実施
- ・バス等の利便性の高いルート設定など、快適に街歩きするための環境の整備

方向性(4)：第三セクター鉄道の運行確保と観光誘客への活用

マイレール意識の高揚や、鉄道そのもののブランド価値の向上、地域と連携した体験型メニューの造成等により、第三セクター鉄道の潜在需要を喚起し、国内外からの誘客を進めます。

取組①：第三セクター鉄道の運行の確保

沿線自治体や事業者と連携して沿線住民のマイレール意識を高めるとともに、沿線住民の通学や通勤、通院等の生活利用を支えるため、第三セクターが運営主体となっている秋田内陸縦貫鉄道と由利高原鉄道の持続的な運行を確保します。

【主な取組】

- ・通勤、通学、通院、買い物など地域住民による日常的な利用の促進と、マイレール意識の醸成（再掲）
- ・厳しい環境にある鉄道事業者の安定的・持続的経営に向けた運営費に対する支援
- ・安全・安心・安定輸送を確保するための鉄道施設の修繕・改良に対する支援

取組②：鉄道と沿線地域を一体化した広域観光の推進

列車そのものの観光資源化など、ブランド価値の向上を図るとともに、地域と連携した体験型メニューの造成、鉄道の持つ魅力や沿線地域の自然、文化、景観などを一体とした情報発信により、国内外からの利用者の増加に取り組みます。

【主な取組】

- ・秋田内陸縦貫鉄道及び由利高原鉄道の「秋田犬列車」の整備や、植樹等による沿線の修景など、鉄道そのもののブランド価値の向上による潜在需要の掘り起こし



春を走る由利高原鉄道

第4章 戦略4：秋田の魅力が際立つ人・もの交流拡大戦略

- ・沿線観光施設を活用した体験型メニューの造成や街歩きモデルコースの設定など、地域資源の掘り起こしや磨き上げによる、沿線市町村と連携した観光利用の促進
- ・SNSや情報誌等を活用した情報発信、海外鉄道と連携した相互送客など、東北各県、首都圏、海外からの誘客の促進

4 施策の数値目標

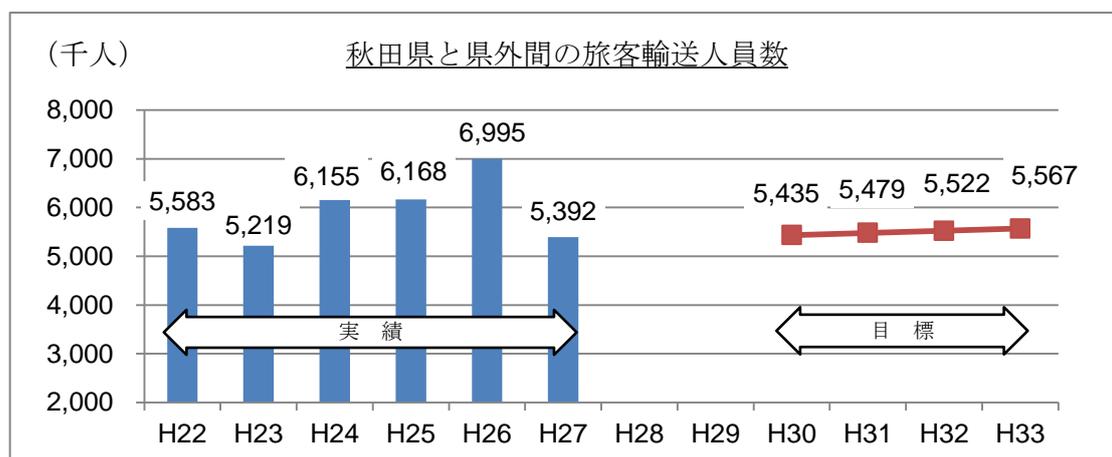
(1) 代表指標

①秋田県と県外間の旅客輸送人員数（単位：千人）

活発な交流を支える利便性の高い交通ネットワークの構築を目指すことから、本県と県外間の公共交通機関の利用者数を示す旅客輸送人員数を指標とします。

現状値(H27)	目標値(H30)	目標値(H31)	目標値(H32)	目標値(H33)
5,392	5,435	5,479	5,522	5,567

（出典：国土交通省「旅客地域流動調査」）



(2) 成果指標、業績指標

①一般乗合旅客自動車運送事業免許キロ数（単位：km）

乗合バス路線の維持等を通じて、地域内交通ネットワークの確保を目指すことから、一般乗合旅客自動車運送事業免許キロ数を指標とします。

現状値(H28)	目標値(H30)	目標値(H31)	目標値(H32)	目標値(H33)
4,146	4,146	4,146	4,146	4,146

（出典：国土交通省東北運輸局秋田運輸支局調べ）